2020
Annual Report

NPO法人
とちぎ
ユースサポーターズ
ネットワーク

アフターコロナ社会への適応へ

2020 年度は、新型コロナウイルスの感染拡大が落ち着くことがなく、新しい生活行動様式など、これまでの日常の風景が変化していきました。当会は、いち早く大学生への影響を調査し、各大学へも情報提供しながら独自の支援策を実施する対応ができました。これまでの課題解決に立ち向かってきた仲間と文化が力となっていることを強く感じました。コロナは、当会の進むべき道にも影響しました。“アフターコロナ社会に適応するチームの在り方（社会に果たす役割、意義、事業、ビジョン、プロセス）の見直しと再構築を行い、取り組むべき課題に対してアクションの実現を加速する”という 3 年間の基本方針が承認されました。その中には、若者を中心に据えた事業展開をしていくこと、エリアマネジメントや栃木と若者をつなぐプラットフォーム機能を作り上げること、などを描いています。あしかもメディアやユースハウス（地域交流拠点 + シェアハウス）、オンラインプログラムなど、自主事業の芽となる事業が生まれていきました。コロナ禍であっても、4,024 名の若者たちと 426 名の協力者とともに、13,230 時間、地域で活動を行い、よき地域社会の実現に向けて歩みを進めることができました。同時に課題としては、即応性に重きを置きすぎ、事務局主導で事業を実施してきたことで、会員や支援者の皆様との距離感を近づけることができなかったと反省しています。次年度は、若者・会員・寄付者・支援者・事業パートナー・スタッフ等、みんなで創る「挑戦が持続・循環する生態系」づくり、会員参加による組織ガバナンス、財政の健全化に注力してまいります。

代表理事　岩井 俊宗

STAFF

代表理事

岩井 俊宗

宇都宮市出身。2005 年宇都宮大学国際学部卒業後、ボランティアコーディネーターとして市民活動支援機関に入職。NPO・ボランティア支援、個別 SOS に従事。若者の成長機会創出と社会課題の解決に向けて持続的に取り組む人材を輩出し、若者による社会づくりの加速を目的に 2008 年に当会を設立し、2010 年に NPO 法人化。代表理事を務める。2 児のパパ。

理事

古河 大輔

小山市出身。仙台、名古屋、南米ボリビアと各地を転々とした後、地元へ。立ち上げ期から参画し、地域の課題解決と挑戦する若者たちの生態系づくりに取り組む日々。複数のチームで、仲間たちと地域に必要なことや地域を楽しむことをあれこれと企てている。その他、一般社団法人カゼトツチ 代表理事など。

プログラムコーディネーター

正木 健

宇都宮市出身。カナダの大学に進学してグローバルな環境で勉強に明け暮れる中、ローカルに目覚める。東京と栃木の二拠点生活をしながら様々なプロジェクトに参画する際に、理事の古河に声をかけてもらい「地方でポジティブなエネルギーのある若者が活躍できる場をつくりたい」という想いから 2019 年にジョイン。

プログラムコーディネーター

門間 大輝

宮城県石巻市出身。東日本大震災の経験から国際医療福祉大学へ進学。当時の学生団体の仲間と『一般社団法人えんがお』の創設に加わり、とちぎユースとの 2 足の草鞋で、”若者”×”地域”×”障がい者”がひとつの街で、互いに支え合い、自分らしい人生を送れるように様々な事業に挑戦中。”楽しみながら仕事をする”がモットー。

プログラムコーディネーター

皆川 美咲

茨城県水戸市出身。大学ではアルティメットにどハマリする。卒業後農業の道に進むが、若者のチャレンジできる環境づくりに共感し、2020 年からユースにジョイン。ヒト・モノの価値を最大限に引き出し、伝え共感してもらえるような仕事をしたいと奮闘中。株式会社アグクルにも所属。桃とアグクルの「おりぜ」が大好き。

インターン生

篠原悠太
森谷真依
中山裕貴
髙嶋みさと
貴田さくら

OUR MAP

これまで核として取り組んできた、若者による社会を良くするスタートアッププログラム「iDEA▶NEXT」（P.05）や実践型インターンシップ「GENBA CHALLENGE」（P.06）などを通して育んだプレイヤーたちとともに、栃木県全体の課題解決を加速させています。

輩出した数

60 人 / 組

インターンシッププログラム
および iDEA▶NEXT ファイナリスト

那須塩原市

○高校生コミュニティ Your Dream（小林 龍威 2018）

さくら市

○褒め褒めフットサル（齊藤弘美　2020）
○まんまとちぎ（NPO 法人ポン・テ）（大河原 千晶 2018）
○キッズクレド（田中崇子 2014）

市貝町

○Project SSB（長野 大輔 2014）

大田原市

○一般社団法人えんがお（濱野 将行 2017）
○農と共に（阿久津 清尚 2019）

那須烏山市

○ユース 2000（なすから暮らし復興支援センター　2019）
○NPO 法人クロスアクション（渡邊 貴也　2014）

高根沢町

○maiMachi（代表 河合 明子　他 3 名　2016）
○高根沢に新しい風を吹き込む「場」を生みだす（佐々木 将志　2019）

鹿沼市

○一般社団法人コブル（中尾 貞人　2016）
○合同会社 Crew（伊川 夢起　2014）

栃木市

○デモクラティックスクール・つながるひろば（宇賀神 雄太　2015）

上三川町

○上三川のいえ（菊地 敦子　2017）

宇都宮市

○マツカフェ（松井藍子　2020）
○TOCHIGI MOVIE（川崎みさ旗　2019）
○社会問題を解決するカフェ Diva（ダー春花サラ　2019）
○Satokko（毛利颯汰　2019）
○株式会社アグクル（小泉泰英　2018）
○新聞ちぎり絵サークル（鎗野智子　2018）
○学生プレゼンコンテスト（高橋利久　2018）
○Tochigi unique wedding（山口絵美　2017）
○Ballon HEROS（斎藤宏　2017）
○精神障がい者の食生活支援（間庭昭雄　2017）
○宇大生シェア化計画（代表 飯ケ浜綾乃　他 2 名　2017）
○スタディカフェ（木津英美里　2017）
○NPO 法人キーデザイン（土橋優平　2015）
○トチギええじゃないか（粟野倫也　2016）
○ガーデンヘルプかぐみえん（小林かぐみ　2016）
○ことのは教室（内藤さつき　2015）
○レクスタ（加藤祐貴　2015）
○ユース 500（かぬま市民生活復興センター　2015）
○宇都宮カクテル college（大館仁志・新妻星也　2013）

（敬称略）

※掲載団体は、主に iDEA▶NEXT のファイナリストで、実際に活動を行った方々を中心に掲載しています。
※団体 / 会社名、もしくはプロジェクト名となっています。

地域 × 若者 ＝ 栃木の新しい物語

NPO 法人とちぎユースサポーターズネットワークは、栃木県をフィールドに活動する団体です。地域の先輩たちから脈々と受け継いできた私たちの暮らす地域では、様々な問題が表出し、多くの課題が生まれています。私たちの社会が生み出した課題は、私たち自身が解決できると信じ、2008 年の団体立ち上げ当初から、「人を育み、地域をつくる」ことを事業の核とし、様々な人々と一緒に挑戦しています。

Our concept

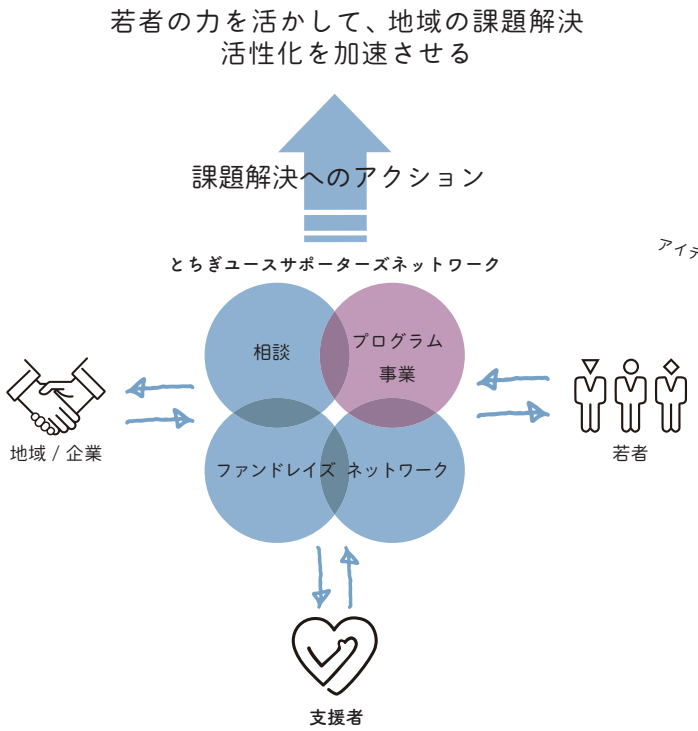
若い人材がチャレンジできる生態系と環境を育み、ひとや地域とのつながりをつくる「地域のコーディネーター」として、活動します。

現場　若者と社会を創る実践者や地域の課題とのリアルな接点

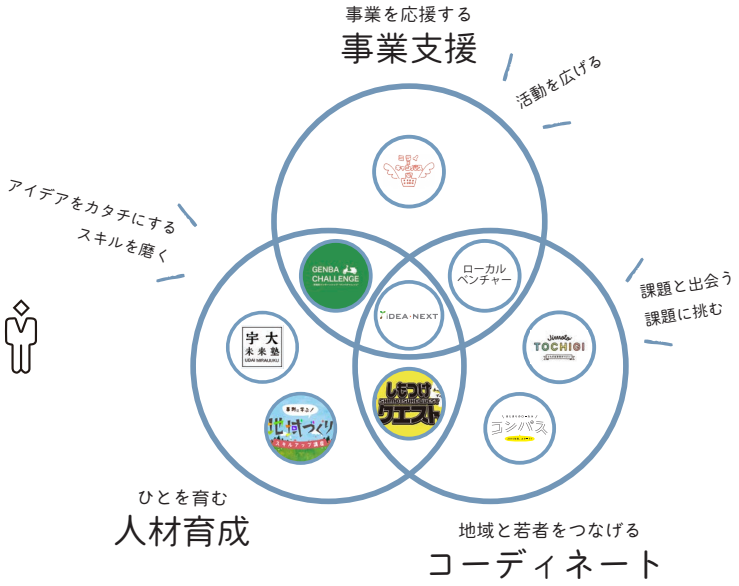
役割　必要とされ、主体的に関われるフィールドの創出

仲間　若者のチャレンジを支えあうソーシャルキャピタル

Our mission



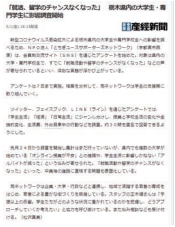
Our approach



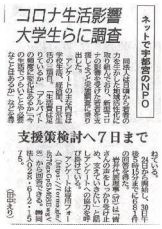
2020 NEWS

questionnaire

コロナの影響に拠るアンケートを大学生向けに実施し、支援策を開発・実施！


「就活、留学のチャンスなくなった」 栃木県内の大学生・専門学生に影響調査結果
産経新聞

県内大学生らコロナで苦境
宇都宮のNPO調査
4人に1人 生活費不足
アルバイト減に内定取り消しも


コロナ生活影響 大学生らに調査
ネットで宇都宮のNPO
支援策検討へ7日まで

学生の4分の1 生活費困窮
新型コロナ
NPOが県内調査 850人回答
バイトなくなり収入減る

大学新入生「47%」減立、4人に1人は生活費不足
栃木県内でNPO調査

新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けた栃木県内の大学生を支援するために実態調査をしました。結果として、大学関係者やメディアなどの協力により 853 件の回答が集まりました。そして、孤立を感じる大学新入生やアルバイトがなくなり生活費が不足している学生など実態が明らかになりました。調査したデータは、県内大学や他 NPO などの支援策に活かすために公開し、当会ではキャリアを考えるオンライン講座や大学新入生限定の交流会などのプログラムを実施しました。

shareddhouse

地域交流 × 学生シェアハウス『ユースハウス』始動！

新型コロナウイルス感染症の影響について調査したアンケートで、生活苦の学生が浮き彫りになりました。そこで安い家賃で学生が生活できる住宅を探していたところ、南宇都宮駅近くの住宅を大家さんのご厚意で安く借りることができました。2 月に第 1 回目の空き家のお掃除を行った際は、韓国で暮らしている大家さんとやりとりをしながら、県内の大学生が中心となり、掃除を進めました。今後は、これまでお世話になってきた地域の人たちの憩いの場を作りたいという大家さんの願いを受け、1 階は地域住民の交流スペースとして、2 階は学生のシェアハウスとして利用していくために、整備を進めていきます。

media

“若者 × 地域 = ソーシャルグッド” をテーマに「若者と栃木の魅力的なヒト・コト・モノ・シゴト」をつないでいく、県内唯一の総合地域メディア始動！

“若者 × 地域 = ソーシャルグッド”をテーマに「若者と栃木の魅力的なヒト・コト・モノ・シゴト」をつないでいく、県内唯一の総合地域メディア「あしかもメディア」を 2020 年 11 月 1 日（日）より始動いたしました。

「あしかもメディア」とは、県内求人情報、学生インタビュー、イベント・プログラム情報等を掲載し、若者と地域の魅力的資源とをつないでいく総合地域メディアです。意欲的な若者も日常を送ることが精いっぱいの若者も、「今日より明日、いいことあるかも」と思うことができ、自分の世界を広げるきっかけとなるメディアでありたいと思っています。大切な気づきは、意外と身近（足元）にあるのかもしれません。栃木県にいまある価値や紡がれていく物語を、「あしかもメディア」は発掘し続けていきます。

- 事業紹介 -

iDEA▶NEXT

「地域の困りごとを何とかしたい！」「もっと地域を盛り上げたい！」という未来に繋がるアイデアを持った若者を育むプログラムです。アイデアを持った若者と、課題解決を目指す組織・企業との輪を広げ、ワクワクする新たな地域を生み出します。

STEP4

活動開始

それぞれの現場で次のステップへと進む！
社会にハッピーを生み出す若者が地域へ！

STEP3

ファイナルプレゼンテーション

半年間にわたる準備や取り組みの成果と未来のプランを地域の方々に発表する。そこでアイデアの協力者や応援者を募る。

STEP2

ブラッシュアップ期間

1 アイデアブラッシュアップ

エントリー者自身のアイデアを磨いていく研修を実施。オンラインの個人面談やブラッシュアップを行う。例年、先輩メンターから指導を受けながらアイデアを練り上げる 1 泊 2 日の合宿、ソーシャルビジネスセミナー、フィールドワークを計画しているが、新型コロナウイルスの影響により、今年度は中止。

2 実践的仮説検証

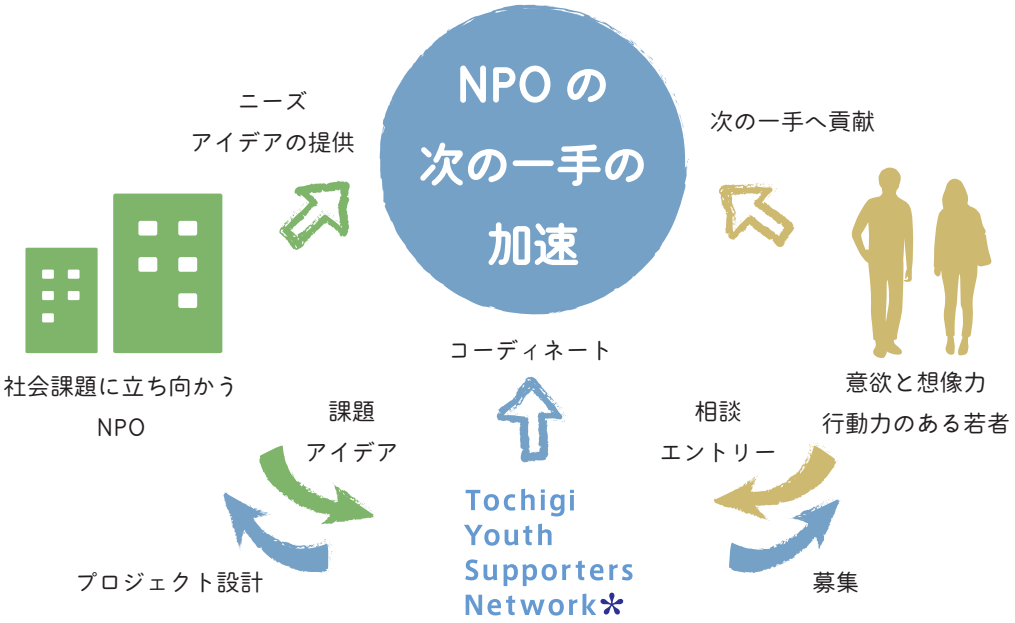
1 次審査を経て選ばれたファイナリストは、適宜相談できる指導者がサポートしながら、お店のプレオープンやイベントの開催、商品の試作品づくりなど、アイデアを小さく実践して確認し、実用性の高いものへしていく。また、プレゼン本番へ向けての準備や練習を行う。

STEP1

アイデア募集・関連プログラム期間

自身が解決したい社会課題への想いやアイデアを持つ方を対象として、先駆者を講師とした事例紹介や企画の作り方講座のほか、自身のアイデアをブラッシュアップできる等、ワークショップ形式を取り入れた主体的にアイデアをカタチにする短期プログラム。

実践型インターンシップ -GENBA CHALLENGE-



那須烏山市民話アニメーション制作インターン

文星芸術大学、メディアアーツ専門学校の学生 8 名と、那須烏山市に口頭伝承されている民話（地域の物語）全 16 話のアニメーションの制作を行いました。シナリオづくり・作画指導に合同会社レクスタ、アニメーション編集制作に株式会社アイディ、ナレーションに烏山語りの会・いかんべ民話の会、DVD 作成・動画サイト投稿に株式会社スキット・つばめソリューション株式会社等、多様な機関と連携し実施しました。制作したアニメーションは、次世代の子どもたちが使用する学校での「ふるさと教材」や観光での「民話ツーリズム」の素材として活用していきます。アニメーションは、YouTube「なすからチャンネル」でご覧いただけます。

参加者の声

今回、民話の制作にあたり 4 名の学生を実践型インターンシップとして受け入れさせて頂きました。単に「イラストの仕事をしてみたい」というだけでなく、それぞれが、プロのイラストレーターや編集者と一緒に一つのプロジェクトを進めてみたいといったり、各部署とのコミュニケーションを含め社会人としてのやり取りや実務を学びたいといったしっかりした動機があり正直驚きました。また、アニメや漫画の制作は他の業種に比べても制作期間がシビアになりがちで、プロの世界でも常に納期との闘いといった場面もありますが、学生たちは実際に手を動かしながら学校とのバランスを考えつつ決められたスケジュールの中で制作期間のとり方も学んでくれたと思います。そして一番良かったと思うことは、このインターンシップがノウハウを知るきっかけで終わるのでなく、学生たちが制作したイラストが実際に民話アニメーションとなって街の人や観光客の目に触れるということです。私達自身もそうですが、彼女たちにとってとても貴重な経験になったと思いますし、強い自信を持ってもらえたのではないかと思います。最後に、受け入れ側としてもこのような貴重な経験をさせてくださったとちぎユースサポーターズネットワーク様には大変感謝申し上げます。

合同会社レクスタ 代表　加藤裕貴

那須烏山市の民話アニメーション化企画で「お救い小屋」「稲積城の由来」「かぐまのちから石」「弥陀如来のカヤの木」の作画を担当しました。自分のイラストをアニメーションとして動かして頂くことは初めてで、新鮮な気持ちです！4 作品を通して様々な絵柄の研究をすることができたので有意義な制作時間でした。今回、このような企画に参加させて頂いてとても良い経験になりました。ありがとうございました！

文星芸術大学マンガ専攻 4 年 生後③週間
（ペンネーム）

とちぎ地域づくり担い手育成事業

地域づくり活動は、興味・関心があっても容易に一歩を踏み出す環境が整っておらず、活動を実践・継続できる人は限られるという現状があります。そんな課題の解決を目指すべく、次世代の地域づくり人材の掘り起こしやアイデアの醸成、担い手の育成を目的に、実践事例の発表や座学研修、現場での体験プログラムの企画・実施を行っています。
※栃木県地域振興課受託事業

宇大未来塾

不透明で不確実な未来に対して主体的に挑戦し（Challenge）、時代の変化に対応して自らを変え（Change）、広く社会に貢献する（Contribution）、3C 精神を備えた若き“とちぎの志士”とその人的ネットワークを育む「とちぎ志士プログラム」、変革期における経営の在り方・思考・技術を学ぶ「次世代経営マネジメントプログラム」を実施しています（新型コロナウイルスの影響により、とちぎ志士プログラムはオンラインで実施・次世代経営マネジメントは中止）。
※宇都宮大学受託事業

創業プロデュース

栃木県・産業振興センター・宇都宮市・地域住民及び地元商工団体等と一体になって地域で創業者を受け入れ、支援する環境の整備を行っています。当会は「創業プロデューサー」として派遣され、創業者・創業準備者を対象とした「地域課題解決型創業支援補助金」の伴走でのサポート、採択者や創業準備者のつながりをつくり切磋琢磨できる事業発表プログラムを実施しました。
※公益財団法人栃木県産業振興センター受託事業

目白大学課題発見・解決型インターンシップ

目白大学（東京都新宿区）で学生がチームとなり、企業の経営課題について分析・改善提案などを実施する課題発見・解決型インターンシップの導入と運営補助、学生のフォロー等を実施しました。世界に展開する「食」の総合プロデュース事業を行う株式会社コロワイドを受入企業に迎え、学生が「売上向上策」や「従業員の働き方改革」、「人材採用策」などの提案を行いました。

あしかもメディア

2020 年 11 月に始動した「若者 × 地域 = ソーシャルグッド」をテーマに据えた総合地域メディアです。栃木をより豊かに、より面白くするために、栃木の素敵なヒト・コト・モノ・シゴトに光を当て、魅力的資源を発信しています。また、想定読者である 39 歳以下の前に進もうとしている若者と地域をつなげるプラットフォームとしての機能も設けており、メディアを介した場作りを大切にしています。

若者と、栃木のヒト・コト・モノ・シゴトをつないでいく
あしかもメディア

ワークライフバランスインターン

大学生を対象に、仕事と子育ての両立など仕事もプライベートも充実した働き方の理解促進を目的に実施。企業や行政の取組み、社会的環境の変化について学び、自身のライフプランを見つめなおし、仕事と子育てを両立している先輩、女性の活躍しやすい職場をつくる経営者とのオンライン意見交換などを行いました。
※宇都宮市男女共同参画課、下野新聞社との連携事業

はじまりのローカル コンパス

「あなたの暮らしにローカルを１０％プラスする」をコンセプトに、都市部に住みながら地方と関わりをつくるプログラムやコミュニティづくりを行っています。東京圏在住の若者と、栃木県で活躍する地域のプレイヤーやプロジェクトを継続的・有機的に結びつけることで、栃木県の地域づくりに関わるファン（関係人口）を創出する取り組みです。今年度は、コロナ禍によりオンラインイベントを中心に益子町や下野市と連携して実施しました。
※益子町企画課、下野市総合政策課 受託事業

Jimoto TOCHIGI

Ｕターンに興味関心がある東京圏在住の栃木県出身者が出会うコミュニティです。学生向けイベント「ジモトチゼミ」、出身者向けイベント「JIMOTO TOCHIGI FES」の開催等、とちぎのたくさんの「ひと・もの・こと」に出会い、暮らしや仕事を楽しみながら、東京からとちぎを盛り上げる活動を行っています。昨年度から LINE 公式アカウントを活用してイベントや就職フェアなどを発信しています。
※ 栃木県地域振興課受託事業

シモツケ大学（下野市公共施設公民連携推進事業）

地域の賑わい創出を目的に、公民が連携しまちづくり人材の育成、若者世代の地域に対する愛着の醸成、地域での居心地の良さの向上を図るプログラム「シモツケ大学」の企画運営等を行っています。知る・遊ぶ・話す・作るがキーワード。その他、公共空間の活用による新たなまちなかの価値の創出に向けた社会実験として、コロナ禍への対策としたオープンテラス事業「石橋縁側」を実施しました。

学生 × 会員交流会 Youth Time

『社会に新しい HAPPY を創り出す挑戦をしている若者たち』『自分がしたいことを探している若者たち』『そんな若者を支えたい先輩たち』が集い、それぞれの現場に必要な仲間や情報を広げていく交流会です。とちぎユースサポーターズネットワークに興味関心のある方だけでなく、イベントやプログラムで出会った参加者の横のつながりを生み出します。

応援者の声

「一歩を深く、そして広くしてくれる存在」

宇都宮大学地域デザイン科学部　伊藤 和樹

大学で建築を学んでおり、空き家の利活用をしてみたいと思っていた時にユースさんと出会いました。その後、空き家に限ることなく様々な企画に参加させて頂き、現在は福祉団体でボランティアをしています。自分で踏み出したのは小さな一歩ですが、それを大きな一歩に変え、また新たな道を開いてくださり、ありがとうございます。

「想いが循環する場所」

宇大未来塾三期生　竿尾 友恵

私がユースと出会ったのは宇大未来塾がきっかけです。その時、社会を良くするために主体的に動くってこういうことなんだ！と衝撃を受けました。それまでの自分はどこか受け身で、住み良い社会は与えられるものだと勘違いしていたように思います。ユースに集まる人達も本当に素敵な人ばかりで、そこでまた若い人達へ意思や想いが受け継がれ循環していく様子にも感銘を受けるばかりです。いつも夢と希望をありがとうございます！応援しています。

「いろんな人に会える、いろんなことを知れる」

宇都宮大学地域デザイン科学部　白金 励大

この場所に来ると多くの面白い大人だけでなく、学生たちにも出会えます。自分自身について考えるきっかけになりますし、他の人の良いところから学べる事も多く、毎日が新しい発見に満ちあふれています。自分の可能性も広がる楽しい場所です！面白い人たちがいっぱいいる空間に皆さんもぜひ飛び込んでみてください！とても楽しいですよ♪

「大好きな空間と大切な仲間」

宇都宮大学地域デザイン科学部　髙嶋 みさと

私はユースでインターンをさせて頂きました。うつむいていた時も前を向けた時もいつも寄り添ってくれ、ユースという空間にいたからこそ見つけられた新しい自分や出会いを心から大切にしたいと思えたのははじめてでした。インターンが終わった今でも大好きな人たちです。ずっとずっと応援しています。

「背中を押してくれる人たち」

国際基督教大学教養学部　江波戸 乃々香

高校生の時に初めて勉強場所として àret を利用したとき、スタッフの方々が気さくに話しかけてくださり、居心地のよさを感じたことを今でも覚えています。ユースの方々にかけていただいた言葉に何度も救われましたし、「自分のことを信じてくれている人たちがいる」と心から思うことが出来ました。皆さんに出会えて本当に幸せです。これからも応援しています。

「地域を話し合う力」

茂木町 雑穀農家のパンと宿 月 noco 君島 佳弘

様々なイベントでユースの皆さんから学ばせていただいたことは、「一人一人の声を汲み上げる」という徹底した姿勢です。今後、様々な地域課題を解決したいと願うとき、ユースのような姿勢の話し合いの場が益々大切になるのだろうと思います。学びの機会と繋がりをいただいた一人として、今後も応援させていただきます。

「ユースと共にあらんことを！」

ラジオパーソナリティ・司会者　永井 塁

まずは、とちぎユースサポーターズネットワークの皆様、一年間また新たなチャレンジの場や出会いの場をご提供頂き、ありがとうございました。皆さんとのお仕事は、やりがいの連続です。それは何より「信頼関係」の元に成り立ったお仕事だからだと思います。またおもろいことやりましょう！また笑顔増やしていきましょう！

「カッコいいオトナが集まる場所」

下野市地域おこし協力隊　鈴木 祐磨

ユースがつくる場所や空間にいるのは、僕が子供の頃に会いたかった、おとなたちでした。キラキラと夢を語る人たち、居心地の良い素敵な場所をつくる人たち、誰かを自分のことのように本気で応援する人たち。そんなカッコいいおとなたちが集まってくる場所から、いつも刺激と激励を感じています。これからも近くで応援しています！

支援者・賛助団体企業

Kids Corporation

幼児教育の専門家が集まり、常に「子どもにとって真に必要な教育とは何か」をモットーに企業や病院内に保育園を普及させる事業などを全国的に展開。

環 ring ゴミを宝に！ 有限会社ドンカメ

「ゴミ（やっかいもの）を宝（堆肥）に転換し、喜び（農産物）として循環する」をスローガンに、生ゴミを堆肥化する事業などを展開。

とちぎボランティアネットワーク TOCHIGI VOLUNTEER NETWORK

栃木県内に住む人の自発的な社会活動を促進するため、困窮者支援、フードバンク活動、災害、復興支援、NPO・ボランティア活動の支援などを行う。

GOKO human link corporation

ディスプレイや空間デザインを通じ、驚き・感動・満足を提供。「人」と「企業」を円滑に結び付け、社会貢献を行う。

Ko-chi

「想いをカタチにする方法があります」というキャッチコピーのもと、プラスチック製品設計、プラスチック金型の設計・製作を行う。

こらぼワーク

障がい者や高齢者の働く機会を作り出す「協同労働」の考えをベースに、それぞれが働きやすい環境を生み出す協同チーム。

DARC 特定非営利活動法人 栃木 DARC

薬物依存者とその家族に対して、地域に根ざした回復支援事業を行うと共に、すべての人々が健やかに暮らせる地域になるよう活動。

心療内科・精神科・復職支援デイケア アイ・こころのクリニック

こころの問題にどう対処したら良いかゆっくりお話をうかがい、お一人お一人の患者様にとって最も最適な治療をともに考える。

ZEAD

クラウドの運用代行や導入支援、開発、およびホスティングやクラウドサービスを提供する技術者集団。

株式会社 ル・リオン Design Office le Lion

宇都宮を拠点にパッケージデザイン等、デザイン全般を手掛けているデザインオフィス。

iDEA▶NEXT 2020 協賛・寄付

TOCHIGI 栃木銀行

LIEN corporation 生まれも、育ちも、これからも

LIEN corporation

つばめソリューション

一般社団法人えんがお

菜の花動物病院

参加者　4,024 人／協力者数　426 人

総活動時間　13,230 時間

ファンドレイズの取り組み

古本で若者のチャレンジを支える寄付のしくみ「ホン de チャレンジ」。読み終えた本が寄付になり、若者の社会を良くするアクションをサポート。ご自宅や職場で不要になった書籍や CD・DVD を株式会社バリューブックスが買い取り、相当額が当会に寄付されるファンドレイジングプログラム。いただいた寄付金については全額「iDEA→NEXT（アイデアネクスト）」の運営資金・受賞者への活動支援金などに活用。

※株式会社バリューブックス協働事業

2020 年度寄付／これまでの総計

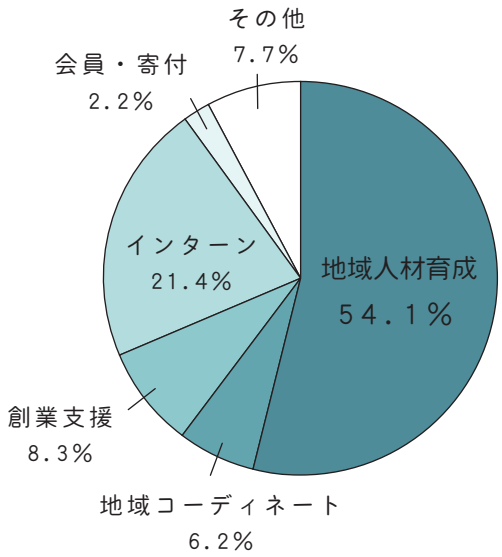
本を寄付してくださった方　44 名 /468 名
寄付冊数　3,809 冊 /45,879 冊
総額　83,056 円 /991,917 円

会計報告

全体収支

収入	39,622,401 円
支出	35,733,263 円

部門別収益構成



団体概要

スタッフ体制：常勤 3 名　非常勤 2 名
運営会員（個人）　36 名
賛助会員（個人）　20 名　賛助会員（団体・企業）11 社
チャレンジ会員　72 名（2020/03/31 現在）
理事 / 役員：

代表理事	岩井　俊宗	（ＮＰＯ法人宇都宮まちづくり市民工房　理事）
副代表	塚本　竜也	（ＮＰＯ法人トチギ環境未来基地　理事長）
理　事	大塚　雅斗	（株式会社キッズコーポレーション　代表取締役）
理　事	小久保　行雄	（有限会社ドンカメ　代表取締役）
理　事	中野　謙作	（一般社団法人栃木県若年者支援機構　理事長）
理　事	古河　大輔	（一般社団法人カゼトツチ　代表理事）
理　事	金井　光一	（ＮＰＯ法人チャレンジド・コミュニティ　代表理事）
理　事	清嶋　磨利夫	（株式会社キップルネットワーク　代表取締役）
理　事	野崎　千晶	（株式会社ワークエントリー　栃木事業部宇都宮営業所所長）
監　事	安藤　正知	（宇都宮市まちづくりセンター　センター長）

NPO 法人とちぎユースサポーターズネットワーク
所在地　栃木県宇都宮市西原 1 丁目 3-4
Tel　028-612-1575　Fax　028-612-1585
E-mail　ysn_office@tochigi-ysn.net
設立　任意団体：2008 年 7 月 1 日／法人化：2010 年 4 月 1 日

Tochigi Youth Supporters Network